



文部科学省 科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」
「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラム



No.1

一気通観だより



平成 22 年 6 月

※校章は県花「杜若」をかきつばたをデザインしたものです。

発行元：豊田工業高等専門学校 地域共同テクノセンター
住所：〒471-8525 豊田市栄生町 2-1 TEL：(0565)36-5941
URL：http://www.toyota-ct.ac.jp/~jimu/techno/

「ものづくり一気通観エンジニアの養成」 プログラム開講式で受講生激励

平成22年度「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラム開講式が4月14日、豊田工業高等専門学校で行われました。開講式には、企業派遣受講生13人、専攻科受講生25人をはじめ、派遣元企業責任者、連携自治体の豊田市関係者、豊田工業高等専門学校教職員など約70人が出席しました。

末松良一校長と豊田市産業部産業労政課の太田庸介課長が、開講の挨拶の中で本プログラムへの期待や受



開講式で受講生を激励する末松校長

講生への激励の言葉を贈り、豊田市議会産業建設委員会の近藤光良委員長が来賓挨拶を行いました。また、受講生を代表し、豊田工業高等専門学校専攻科学生の鬼頭正博さん、小島プレス工業株式会社の川出誠さんが決意表明を行い、本プログラム受講への意欲を力強く述べました。

校長あいさつ

◆豊田工業高等専門学校

校長 末松良一

豊田市、地域企業のみなさんをはじめ、多くの方々のご支援・ご協力を得て、本日の開講式を迎える運びとなり、企業技術者の方、専攻科1年生の学生を迎え、このように開講式を挙行出来ることは大きな喜びであります。

豊田市では、これまでの自動車産業を中心とした大きなピラミッド型の産業構造に加えて、新分野であるエネルギー・新素材・バイオ・情報といった、新たなピラミッドを作ろうと計画されています。新しい産業分野で、製品開発など中心的な働きが出来る技術者を養成しようという

思いが本プログラムのモチベーションになりました。

また、この地域のものづくり企業の技術者教育には、非常に素晴らしいものがあります。その特長を活かして、科学・技術・技能の3つが三位一体の形となった教育を、より多くの企業技術者に受けて頂きたいという思いも抱いていました。

企業技術者の皆さんは、送り出してくれた企業の期待を受け止めながら、豊田地域のこれからの産業を背負っていくんだという気構えで、柔軟な発想を持ち、異なる分野の人たちとチームを組んで課題に取り組みという経験が将来の糧になるという思いで励んで頂きたいと思えます。

そして、専攻科1年生の皆さん。この新しい試みが成功するためには1期生の皆さん方の協力が不可欠です。ぜひ、この地域の新産業の発展に貢献できるように「ものづくり一気通観エンジニア」の素養を身につけて頂きたいと願っています。

連携自治体あいさつ

◆豊田市産業部 産業労政課

課長 太田庸介

本日、ここに「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムが盛大に開講されることをお喜び申し

上げます。受講者の皆様も、これから2年間に渡るプログラムへの期待と決意がみなぎっていることと思います。

さて、本市では平成14年度から製造品出荷額が全国1位になるなど着実な成長・発展を遂げてきましたが、急激な経済状況悪化の中、製造業は急激な減産と売上減少の影響を受けています。また、急激な技術革新の進展も伴い、市内企業は転換期を迎えています。これを逆に地域再生の大きなチャンスと捉え、本市では平成21年度より、産学官の連携による本プログラムについて地域再生の認



代表先生 鬼頭正博 専攻科

域の企業技術者の方々や専攻分野の異なるメンバーと一

緒にプロジェクトを進めていくことを楽しみにしています。様々な分野の人と共に、ものづくりの一連の過程に取り組むことで、創造力あふれる、広い視野を持った技術者を目指し、努力することを誓います。

受講生代表 決意表明



代表 川出 誠 企業技術者

の期待に、2年間を有効に活用し、ものづくりを

新興国の経済成長等に伴う競争激化の中、より良いものを安く作るために、設計から生産まで一貫して考えられる技術者が求められていると思います。将来は中核技術者になれるようにと、派遣してくれた各企業の期待に、2年間を有効に活用し、ものづくりを

定を受け、連携・支援してきました。本市が今後もこの地域の中核都市として発展していくためには、有能なものづくり人材の確保・育成が不可欠となります。豊田高専は、優秀な技術者を輩出すると共に、本市の産学官連携の中核として、大きな原動力となつて活躍いただいております。企業技術者ならびに専攻科学生の皆様方が、豊田高専において当プログラムを学ばれることにより、2年後には「ものづくり—気通観エンジニア」として創造力豊かなリーダー技術者となられるよう、ご期待申し上げます。



池田重晴氏による講演

エンジニアの素養を磨く 「技術者マインドセミナー」開催

りながら、貫き通した「モノ創り」へのこだわりや、「無動力思想」「ナガラ思想」といった自身の哲学について語りました。講演終了後の質疑応答では、獨創性発揮の秘訣や、アイデアに行き詰った時の対処法なども披露しました。

■ ■ ■ 研究施設見学会

特別講演終了後、豊田工業高等専門学校地域共同テクノセンターで、本プログラム実践課題研究施設の見学会が行われました。受講予定者、派遣企業関係者などを対象に、新たな人材教育の手法を開発・研究するプログラムの内容と、課題研究に使用する研究施設が紹介されました。

科学技術振興調整費による「地域再生人材創出拠点の形成」事業及び豊田市「ものづくり人材育成」事業にかかわる特別講演会が3月10日、豊田工業高等専門学校図書館多目的ホールで行われました。「ものづくり—気通観エンジニアの養成」プログラムの受講予定者、派遣企業関係者、豊田高専教員など約150人が出席しました。

講演はアイシン・エイ・ダブリュ株式会社ものづくりセンター長の池田重晴氏が講師を務め、「温故知新のモノ創り—日本固有技能の伝承と発展—」と題して行われました。池田氏は生い立ちや仕事ぶりを振り返



実践課題研究施設の見学会